

# 原間遺跡

—古川河川改修に伴う埋蔵文化財発掘調査報告—

平成13年3月

香川県教育委員会

## 例　　言

1. 本書は、四国横断自動車道等緊急整備事業古川河川改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書で、原間遺跡（わらまいせき）の調査成果を収録した。
2. 本遺跡は、香川県大川郡大内町川東に所在する。
3. 調査は香川県土木部横断自動車道対策室より依頼を受け、香川県教育委員会が実施した。
4. 調査は香川県教育委員会事務局文化行政課文化財専門員 森 格也が担当した。
5. 発掘調査、整理作業を通じて以下の関係諸機関の協力を得た。記して感謝したい。  
香川県土木部横断自動車道対策室、香川県長尾土木事務所、財團法人香川県埋蔵文化財調査センター
6. 本書挿図中の標高は海拔、方位は国土座標第Ⅳ系の北である。
7. 挿図の一部に国土地理院発行の1/25,000の地形図を使用した。
8. 本書の執筆、図集は森が行った。
9. 出土遺物、図面、写真は香川県教育委員会が保管し、香川県埋蔵文化財センターに収納している。

## 目 次

第1章 調査に至る経緯と経過	1
第2章 遺跡の立地と環境	2
第3章 調査の成果	2
第4章まとめ	7

## 挿 図 目 次

第1図 調査位置図	1
第2図 周辺の遺跡	3
第3図 調査区位置図	4
第4図 調査区西壁土層断面図	5
第5図 造構配置図	6
第6図 SD01断面図	7
第7図 出土遺物実測図	7

## 図 版 目 次

写真1 調査地遠景（西から）	9
写真2 調査区調査前（東から）	9
写真3 水田畦畔検出状況（南から）	9
写真4 溝状造構検出状況（南から）	10
写真5 完掘状況（南から）	10
写真6 調査区東側（南から）	10
写真7 調査区西側（南から）	11
写真8 溝状造構完掘状況（南から）	11
写真9 畦畔部分土層断面（東から）	11

## 第1章 調査に至る経緯と経過

古川は虎丸山から北東方向に派生する丘陵の裾部に源を発してから北流し、寺山丘陵の南西部分でクランク状に屈曲した後に北方向に直線的に流れ河口部分で与田川と合流する。東讃地方の代表的な河川である湊川と与田川の間に位置する河川である。この古川が原間池の西側に差し掛かる位置に、四国横断自動車道（津田～引田間）とインターチェンジが建設されることとなり、これを契機にインターチェンジ部分とそこから北側へ約600mほどの中川改修事業が計画された。

この改修事業は現河川の拡幅と一部にはバイパス河川となる部分があるため、工事を最初に取りかかる町道から北側の部分について、平成10年10月6日・7日に埋蔵文化財の有無を確認するための試掘調査を実施した。この結果、古川が県道大内白鳥インター線と交差する部分の東側部分で埋蔵文化財が確認されたので、「小僧遺跡」として平成12年1月～3月に勘定香川県埋蔵文化財調査センターに委託して発掘調査を実施した。

さらに町道とインターチェンジの間の部分についても平成12年9月26日・27日に試掘調査を実施した。その結果、大部分は現古川の旧流路で遺構・遺物とも検出されなかつたが、インターチェンジから北側約80～100mの部分で遺構・遺物が検出され、この約240m<sup>2</sup>の部分については文化財保護法に基づく保護措置が必要と判断された。保護措置が必要な箇所は「原間遺跡」とし、香川県長尾土木事務所と協議の結果、文化行政課が発掘調査を実施した。発掘調査は平成12年11月29日～12月11日の間の実働7日で実施した。

出土遺物の整理と報告書の作成は、香川県埋蔵文化財センターで適宜実施した。



第1図 調査位置図

## 第2章 遺跡の立地と環境

原間遺跡は大内町の南東部に位置しており、白鳥町との町境部分に位置している。南西部には虎丸山を頂き、大局的には阿讃山脈から派生する山塊に囲まれ、その山間から流れ出る河川のうちの一つである古川が作り出した狭小な沖積平野の端部に位置している。古川の中流域では西側を流れる与田川とともに作り出した沖積平野が広がり、平野部が広くなって行く。

今回の調査地の南側に隣接して、四国横断自動車道関係で調査された原間遺跡が展開している。調査の結果、一部縄文時代前期・後期の遺物が出土している他は、主として弥生時代～平安時代の集落跡が検出されている。特に弥生時代は後期が中心で堅穴住居跡と自然河川から多量の土器とともに杵などの木器が出土している。この原間遺跡の西側と南～南東の丘陵上には中～後期の古墳が所在しており、横断道建設に伴い調査された。西側丘陵の古墳は粘土櫛、木棺直葬、箱式石棺といった埋葬形態をもっている。このうち原間4号墳は、中央に主体部をもち、木棺痕跡は確認されていないが、鉄刀・鉄鎌などの鉄器が副葬されていた。南側の丘陵には主体部に木櫛を使用している原間6号墳があり、鉄刀・甲冑などが出土している。また横穴式石室をもつ原間2号墳がある。さらにこの西側丘陵の南方の丘陵裾部には横穴式石室をもつ原間1号墳が知られている。原間池を挟んで東側の丘陵上の埴輪遺跡では弥生時代後期～終末にかけての上器棺墓群と上壇墓群が検出されている。墳墓からの出土ではないが、懸垂鏡として使用された可能性が高い船載と考えられる内行花文鏡片の出土が注目される。

また、南西方向の虎丸山の山頂には戦国時代の寒川氏の居城であった虎丸山城跡がある。

これらに対し、今回の調査地の北側の丘陵には全長38mの前期の前方後円墳である大日山古墳が所在している。この丘陵の続きで東に約150mのところの緩斜面に高松庵寺跡があるが、古代の瓦が採集されている他に礎石が1個残っているのみで、寺関係の施設等は確認されていない。この高松庵寺の南側斜面では瓦を焼成したと考えられる窯跡が検出されている。さらに今回の調査地の200mほど北側では、同じく古川改修に伴って小僧遺跡があり、古川の旧流路と考えられる自然河川跡から弥生時代前期後半の土器が出土している。この流路のさらに上層部分から古代～中世の遺物が出土している。

## 第3章 調査の成果

調査区の基本層序は第4図のとおりである。それによると耕作上下10cmで厚さ20cmほどの灰褐色～灰茶色の砂を多く含んだ弱い粘質土となる。この層の下部で水田畦畔の頂部が検出される。この層の下には水田埋土である暗灰～黒灰色の粘質土が堆積している。この埋土には部分的にきめの細かい褐色系の細砂が堆积していた。水田面は標高12.6mの位置である。

遺構は畦畔を含む水田遺構と溝状遺構で、現古川側では、古川の旧河川跡が検出され、その氾濫により調査区の東端の水田遺構は壊されていた。また調査区中央部は東西方向に現代の暗渠排水路により搅乱されていた。

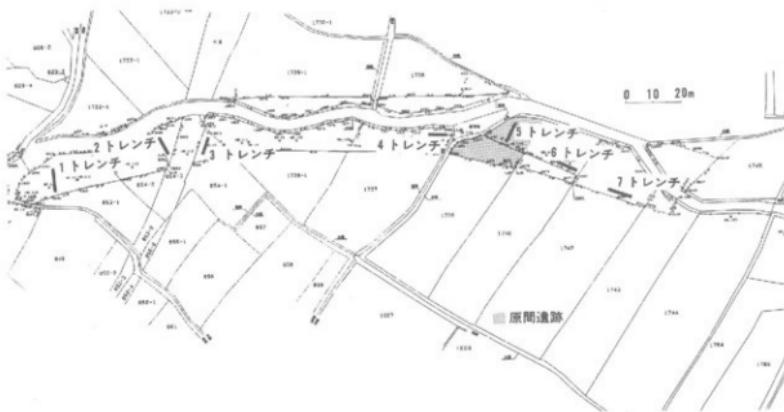


1. 大日山古墳      2. 高松庵寺      3. 原間1号墳      4. 原間3号墳  
 5. 原間4号墳      6. 原間7号墳      7. 原間8号墳      8. 原間9号墳  
 9. 原間10号墳      10. 原間2号墳      11. 原間5号墳      12. 原間6号墳  
 13. 桶端1号墳      14. 桶端2号墳      15. 神越2号墳      16. 神越桃山古墳  
 17. 原間遺跡(県道大内白鳥インター線) 18. 小僧遺跡      19. 原間遺跡(調査地)

I区～X区 原間遺跡 A区～E区 団堀遺跡

『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 平成10年度』1999.3 p.63 に加筆

第2図 周辺の遺跡



第3図 調査区位置図

(遺構)

#### S Z01

8.4m×3.5~4.5mの水田跡で、平面形は長方形であるが南側に向かって幅が狭くなっている。

畦畔は幅35~80cmで、特に東側の畦畔の幅が広くなっている。畦畔の高さは6cmほど残っていた。水田一筆の面積は29.4~37.8m<sup>2</sup>である。南東隅は畦畔が途切れており、S Z02との水口と考えられる。この水田の被服土より若干の弥生土器と土師器の細片とともに、須恵器杯の底部が出土している。

#### S Z02

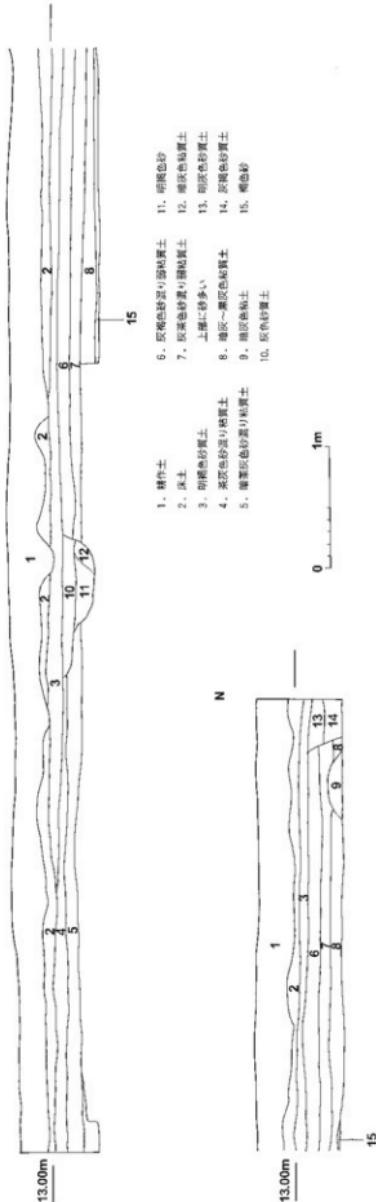
S Z01の南側に隣接して築かれた3.5m×検出長3.0mの水田跡で、全体を検出していないがS Z01と同様に平面形は長方形と考えられる。畦畔は幅35cmで高さは7cmである。東側の畦畔は南側に向かうほど削平を受けており、部分的にしか検出されなかった。北東隅は畦畔が途切れており、S Z01との水口と考えられる。

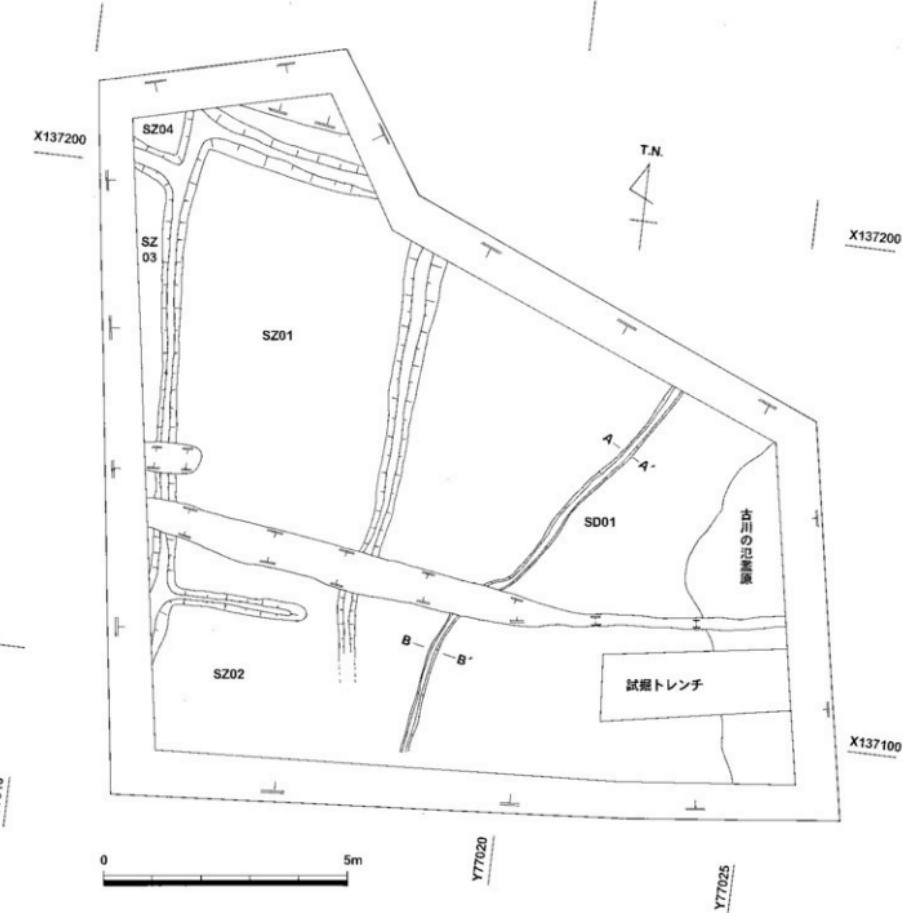
#### S Z03

調査区西壁際で検出した7.7m×検出長0.7mの水田跡である。南東隅部分は調査区西壁にあたり、南側の畦畔は検出されなかった。畦畔は幅35~55cmで高さは6cmである。

#### S Z04

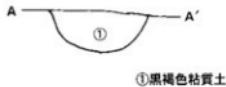
調査区北西隅で検出した水田跡で、隅から0.9m部分のみ畦畔を検出した。畦畔は幅55~65cmで高さは12cmである。

第4図 調査区西壁土層断面図 ( $S=1/40$ )



第5図 潟構配置図 ( $S=1/100$ )

12.80m



①黒褐色粘質土

12.80m



0 50cm

第6図 S D01断面図 ( $S=1/20$ )



0 10cm

第7図 出土遺物実測図 ( $S=1/4$ )

#### S D01

調査区の中央やや東寄りで北東一南西方に向にのびる溝で、調査区中央から北東部分は直線であるが、中央やや南西側では緩く蛇行している。長さ9.3m、幅15~25cm、深さは6~10cmで埋土は黒褐色粘質土の単一層である。溝の断面形は半円形で南側になるほど浅くなっている。遺物は出土しなかった。

#### (遺物)

遺物は水田の埋土である暗灰~黒灰色粘質土から少量出土したが、すべて細片で図化出来たのは1点のみである。1は須恵器杯で底部に内面が段になる高台が付いている。その他に須恵器片と摩滅した弥生土器片が出土している。

## 第4章 まとめ

今回の発掘調査では、古代~中世と考えられる水田遺構が検出された。調査地の西側は現地表面の観察でも周辺より低くなってしまっており、旧河道の存在が予想される。今回の発掘調査に先立ち、古川に沿うように試掘調査を実施した結果、一帯が大きな旧河道の一部であることを確認している。現在の古川の氾濫を受けなかった部分に今回検出した水田遺構が検出されたのである。今回検出した以外でも周辺にこの大きな旧河道の埋土を利用して水田が築かれていた可能性は非常に高い。

検出した水田遺構は4筆分であるが、このうち全体がわかるS Z01は $8.4\text{m} \times 3.5\sim 4.5\text{m}$ で平面形は長方形であるが南側に向かって幅が狭くなっている。いわゆる小区画水田で形が整然とした長方形でないのは、旧河道の流れや形状に規制された結果と考えられる。

遺跡の周辺地域は、正確な位置は特定されていないが古代の官道である南海道が走り、白鳥廃寺などの寺院があるなど、古代では開けた地域の一つである。現在でも与田川東岸の平野部などの周辺地域には一辺109mほどに大きく区画された条里型水田が展開しており、条里制が当地域でも古くから施工さ

れたことは間違いない。今回検出した水田遺構はこのような条里型水田ではない。この水田遺構の埋土からは僅かに土器が出土したにとどまり、すべてが細片である。摩滅した弥生土器とともに図示した須恵器の杯が出土している。この須恵器から水田遺構は8世紀後半を上限とした時期が考えられる。

調査地が平地の中心部ではなく丘陵の裾部に近いため、丘陵の地形や旧河道の流れに規制されやすいことから、検出した小区画水田をもって8世紀後半段階ではまだ当地域には条里型水田が成立していない、つまり条里制が施工されていないとは言い切れない。南海道の整備を契機に周囲の開発が進展し、南海道を中心に条里制が施工されて行ったとは十分に考えられるが、その時期は今回の調査では判明しなかった。今後、周辺地域の調査を行うときの課題の一つと言えよう。

調査地の南側では弥生時代後期から古代にかけての一大集落である原間遺跡が展開しており、今回の調査区の古川周辺の低地部分を中心に乗産域が形成されたと考えられる。今後、その乗産域の広がりと時期的な変遷が原間遺跡の集落の変遷と結びついているかどうかをつかむことが重要となってこよう。

周辺地域で水田遺構はあまり検出されておらず、今回は調査区は狭いが多大な成果を得たものとなつた。



写真 1  
調査地遠景（西から）



写真 2  
調査区調査前（東から）

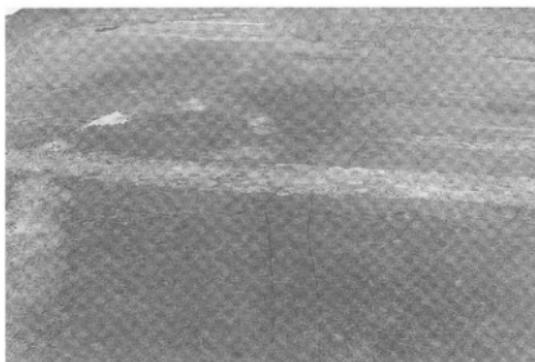


写真 3  
水田畦畔検出状況（南から）

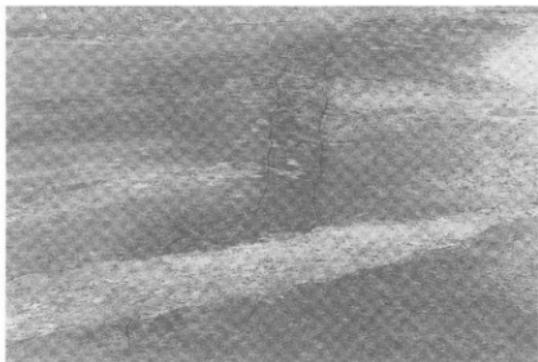


写真 4

溝状遺構検出状況（南から）

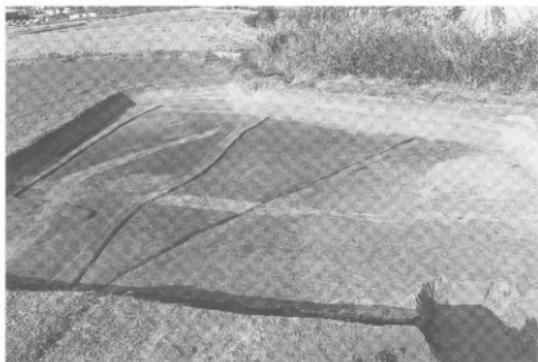


写真 5

完掘状況（南から）



写真 6

調査区東側（南から）

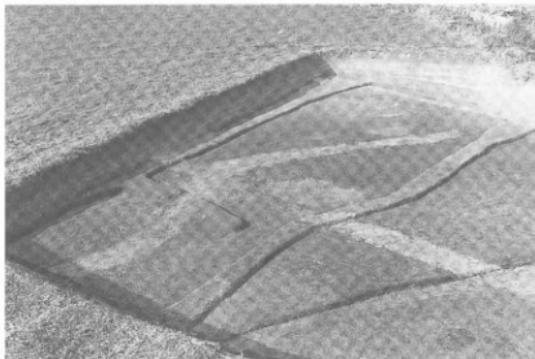


写真 7

調査区西側（南から）



写真 8

溝状造構完掘状況（南から）

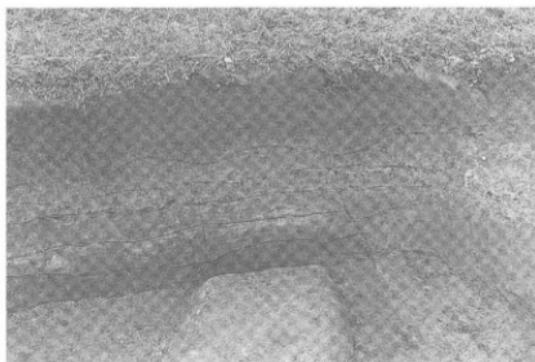


写真 9

畦畔部分土層断面（東から）

## 報告書抄録

ふりがな	わらまいせき							
書名	原間遺跡							
副書名	古川河川改修に伴う埋蔵文化財発掘調査報告							
卷次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	森 格也							
編集機関	香川県教育委員会							
所在地	香川県高松市番町2丁目1-1 NTT番町ビル 電話 087-831-1111							
発行機関名	香川県教育委員会							
発行年月日	2001年3月							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯 ° / ′ / ″	東経 ° / ′ / ″	調査期間	調査面積 (m <sup>2</sup> )	調査原因
		市町	遺跡					
原間遺跡	香川県大川郡大内町 川東	37303		34度 14分 04秒	134度 20分 06秒	2000 ~ 2000 12・11	240	古川河川 改修
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
原間遺跡	生産遺跡	古代	水田遺構 溝状遺構		須恵器 弥生土器			

吉川河川改修に伴う埋蔵文化財発掘調査報告

原間遺跡

平成13年3月

編集・発行 〒760-0017  
香川県高松市番町2丁目1-1 NTT番町ビル  
香川県教育委員会

発 行 香川県教育委員会

印 刷 株式会社 中央印刷所